

大阪市立南中学校 令和元年度 校長経営戦略支援予算【基本配付】実施報告書
(補足説明資料)

本校では、以下のような年度目標を設定した。

- ①「人権・平和」の取り組みや「芸術鑑賞」などの行事を通じて、相手を思いやる気持ちの育成を図るとともに、情操が豊かで「いじめ」の起こらない学校づくりを目指す。
- ②様々な体験活動を取り入れることで学校生活を充実させ、生徒アンケートにおける「学校が楽しい」の項目で肯定的に回答する生徒の割合を昨年度以上にする。
- ③確かな学力を育むため、I C T機器を活用した授業等、より効果的な授業実践に取り組み、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」の項目に肯定的に答える生徒の割合を前年度より上昇させる。
- ④昨年度に引き続き、校長戦略予算を活用した全生徒対象の漢字検定を実施し、昨年度より合格率を高めるなど、多くの生徒に達成感を味わわせる。
- ⑤日本語指導の必要な生徒の学習環境を整備し、日本語能力アップを図り、全体的な学力の底上げにつなげる。

上記を達成するために、以下の5つの取組を行った。

(1) 芸術鑑賞行事の実施

1. 取組を実施する必要性

生徒にとって日頃触れることの少ない芸術鑑賞の機会をもつことで、豊かな情操を育むとともに、様々な文化に接することが多文化共生にもつながる。

2. 取組を実施することにより期待できる効果

豊かな情操や多文化共生の考え方が、相手を思いやる気持ちを育み、「いじめ」の起こらない学校づくりにつながる。

3. 具体的な実施内容

全校生徒対象の芸術鑑賞行事として、古典芸能の鑑賞を行った。

4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

芸術鑑賞実施後の生徒のアンケートも満足のいく結果であり、目標通りに達成できたと考えられるため、B評価とした。

(2) 1年生「地域探訪」の実施

(3) 2年生「大阪城周辺フィールドワーク」の実施

1. 取組を実施する必要性

様々な体験活動や行事を行うことが、「人権・平和」などの学習を深めるとともに、学校生活を充実させることにつながる。

2. 取組を実施することにより期待できる効果

体験活動や行事を通して、さらに学習を深めるとともに、達成感を味わうことで、学校生活を充実したものにする。

3. 具体的な実施内容

(2) 1年生は班単位で大阪市内の各施設を見学し、自分たちの暮らす大阪に対する関心を深め、公共のルールやマナーを守って、自主的に行動することができた。

(3) 2年生は班単位で大阪城周辺の戦跡を見学し、戦争の悲惨さ、平和の尊さをあらためて学ぶことができた。

4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

・取組に対する達成状況：B

・評価理由：

行事後のアンケートで、「充実していた」と回答する生徒の割合を90%以上に保つことができた。また、生徒アンケートにおける「学校が楽しい」の項目で肯定的に回答する生徒の割合が、昨年度の89%から91%に上昇した。以上の成果から、B評価とした。

(4) 漢字検定の全校受検

1. 取組を実施する必要性

本校では外国にルーツをもつ生徒の割合が約40%で、その中には日本語指導を必要とする生徒も多い。そのような生徒も含めて、全ての教科の基礎学力となる語彙力や国語力をどのようにして向上させるかが課題であり、そのための方策の一つとして、個々の能力に合わせて受検することのできる漢字検定を活用する必要がある。

2. 取組を実施することにより期待できる効果

- ・全ての教科の基礎学力となる語彙力や国語力（日本語力）が向上し、全校生徒の基礎学力の向上が期待できる
- ・漢字検定に向けての学習を通じて達成感を得ることが、さらに学習意欲を高めることにつながる。

3. 具体的な実施内容

国語の授業等で過去の級別問題を受験し、目標の級を決定したうえで、11月に全校生徒を対象として漢字検定を実施した。各学年の総合的な学習の時間などにも対策を行い、生徒会役員を中心に昼食時の放送で漢字に関するクイズを出題するなどの取り組みも行った。

4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A
- ・評価理由：

漢字検定の合格率が昨年度の60%から72%に上昇した。また生徒は意欲的に取り組み、合格した生徒もそうでない生徒も次につながる結果となった。

以上の成果から、A評価とした。

（5）日本語指導を中心とする外部講師

1. 取組を実施する必要性

本校では、フィリピン・中国をはじめ外国にルーツのある生徒が多数在籍している。そのような生徒の中には、日本語指導を必要とする生徒も多く、その学習内容も一人ひとりの日本語力や学習段階によって違ってくる。そういった生徒を含めて、個に応じた、よりきめ細やかな指導を継続して行うことが、授業をよりわかりやすいものにし、そのことが学力向上に結びつくと考えられる。そのために、日本語指導を中心に、外部の人材を活用し、授業の際に生徒のサポートができる体制をつくる必要がある。

2. 取組を実施することにより期待できる効果

- ・きめ細かな支援により、「わかる」という実感を得られることで、学習意欲をさらに高めることができる。
- ・学校全体の学力を向上させることができる。

3. 具体的な実施内容

外部の人材を活用し、日本語指導をよりきめ細やかに行うことができた。また、さまざまな教科の授業において、外国にルーツのある生徒など、配慮を必要とする生徒のサポートを行った。

4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

- ・取組に対する達成状況：A
- ・評価理由：

多くの生徒が、よりきめ細やかな指導や支援を受けることができ、学習意欲および学力の向上につながるとともに、日本語指導を必要とする生徒にとっては、学校がより安心して過ごせる場となった。また、生徒アンケートで「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合は昨年度の86%から97%に上昇した。

以上の成果から、A評価とした。

○総論

1. 年度目標の達成状況、総評

本校では、上記の取組を実施することにより、生徒アンケートにおいて、「いじめなどをせず、友達を大切にしていますか」の項目に対して100%、「学校が楽しいですか」の項目に対して91%、「授業がわかりやすいですか」の項目に対して97%の生徒が肯定的な回答をしている。

また、「中学校チャレンジテストにおける標準化得点を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる」という年度目標に対して、「いずれの学年も前年度より向上させる」ことができただけでなく、漢字検定の合格率において目標を10%以上上回るなど、学習面でも一定の成果を上げることができた。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

これは、全職員が学習面はもちろん、学校生活全般にわたって、個に応じたきめ細やかな指導や支援を心がけるとともに、生徒が意欲的に取り組んだ結果であると考えられる。

2. 学校協議会における意見

学校協議会においては、目標に対する達成状況から成果をあげたことに対して、高評価をしていただきました。本校の教職員が一人一人を大切にする教育を実践してきたこと、一人一人それぞれの課題を抱える生徒に対してきちんと向き合い確かな成長につなげたことに対して、労いの言葉をいただくと同時に、さらなる成長を目ざして取組の続行を求める意見もありました。